
魔法少女リリカルなのはForce - 光を統べる者 -

MATASA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはForce

- 光を統べる者 -

【Nコード】

N1808P

【作者名】

MATASA

【あらすじ】

時空管理局。あらゆる魔法と次元世界を管理する場所。そんな管理局には不都合な情報、世界、魔法をかき消すための機関が存在していた。

・・・原作は若干崩壊しています。

九月二十日（月） 午前00時00分 常陽市山地駄市

夏の暑さが弱まり秋の風が頬を掠める頃。

山地駄町のある普通の一軒家に事件が起きた。

それは、あまりにも悲しく辛い事件だった。

事件の発端は一人の少年によるほんの些細な疑問から始まる。

―はたして、死ぬというのはこんなに恐いものなのか？

吸い込まれそうな漆黒の髪に光を失った栗色の瞳、そして、少年を見て最も目に飛び込んでくるのが、首に架けてある紅色のカラーコンタクト。背格好は小学校低学年程度だが、その少年は妙に大人びた感じを漂わせている。

少年の名前は凜堂翔夜。りんどうしょうや小学6年生である。

翔夜は原因不明の病を患っていて、医師から余命3年と告げられていた。だからその分楽しく生きよう。笑って生きよう。と必死に恐怖を押し殺し、作り笑いを浮かべながら生きてきた。

そして、入院してから3年後の現在。事件は起きた。

翔夜が突如この世界から姿を消してしまった。ただ単に消えたのではなく、存在ごと消えてしまったのである。

それを察知した時空管理局は直ぐに調査を開始した。しかし、この世界のどこを探しても少年のいた痕跡はなく、この事件は未解決のまま幕を閉じた。

そして翌年の四月九日、人々の記憶から少年の記憶が消えてから・・・
・その世界は謎の次元震によって崩壊した。

翌年 四月九日（土） 午前11時24分 ミッドチルダ中心地区 「時空管理局本局」

次元世界でも最新の魔法を取り入れている近代都市、ミッドチルダ都市部には強大な建造物がいくつも立ち並んでいる。

さらに都市化の進んでいない山岳部では今でも緑豊かな色を描いている。

そんな広大な世界にある「時空管理局」の一室からどこか遠くを眺めている女性がいた。

ロングヘアーに管理局の制服で纏われているスタイルの良い体。そして、人の目を引き付けるような赤色の石が付いたネックレス。

その女性の名前は高町なのは。

時空管理局の機動六課に所属していて魔力量では空戦S＋クラスも持つ魔導士だ。

そんな魔導士はどこか遠くを眺めている。

「なんだか胸騒ぎがするな・・・」

そう呟き不安な表情をより強める。すると

「入るよ、なのは」

とドアの向こうから声が聞こえ、一人の制服を着た女性が入ってきた。

金髪のロングヘアーにどこか力強い瞳、そして黄色い三角のデバイスが特徴的である。

その女性の名前はフェイト・T・ハラウンといい、なのはの大親友である。

そんなフェイトが心配しながら尋ねてくる。

「どうしたの？具合でも悪い？」

すると、なのははにっこり微笑み、

「大丈夫だよ、フェイトちゃん」

と何もないように言ってくる。しかし、その笑顔にはやはり若干の

曇りがある。

「何か心配事があつたら言つてね？」

「うん。ありがとう・・・」

そんなやりとりをしていると、突如大地と大気が物凄い振動を起こした。

「！！！！」

二人は窓の方に目を向ける。

しかし、街に特に変わった様子はない。

「まさか・・・次元震？」

そして、二人は部屋を出て駆け出していった。

同日同時刻 第21無人世界「ガルディゴ」

ここは人が一切住んでいない荒廃した世界、「ガルディゴ」。

空は一日中暗雲に覆われていて、その中には雷が轟音を鳴らし蠢いている。さらに大地は、動植物は死に、枯れもはや存在していた痕跡すら残っていない程である。

そんな世界で、翔夜は一人歩いていた。雷が光る度にその重々しい姿が見える。

「相変わらずここは凄い所だな・・・」

翔夜は一人感嘆の言葉を漏らしている。

今までこんなのにびりとした時間が無かったので、ここぞというばかりに伸びをしてみる。

《そんなのにのんびりしていて大丈夫か？管理局が来るぞ？》

翔夜のすぐ傍から少女の声がした。すると、その右の瞳が紅く黒く染まっていく。

そして翔夜のすぐ隣にその声の少女が姿を現す。

少女はあまりにも美しく気高かった。紅色の腰辺りまである長い髪に透き通った白い肌、さらに人を誘惑するような妖艶な瞳。

その少女の名前はシエクロム。翔夜の融合型デバイスである。

本当の名前はもつと長くややこしいのだが翔夜が読みにくいと文句を言ったので新たな名前をつけた。それに、シエクロム自身も気に入ったのでそれで決まりになっている。

「管理局つてあの・・・なんかややこしい奴らの事？」

《相変わらず何も知らないのね・・・》

シエクロムは翔夜をバカにした表情で言う。

「仕方ないだろ！最近まで魔法の存在さえ知らなかったんだからさあ」

《そんなことじゃ一瞬でやられてしまうわよ。もつと鍛えなくちゃ！》

「勘弁してください！」

こんなやりとりをはたから見ているとただの仲のいい幼馴染みどうしに見える。

しかし、彼らは違う。決して友達などではなく、信頼できる相棒なのだ。

だから、こういう所を互いに見せつつも実は、真剣に話していたりする。

「そう言えばさあ」

《ん？なに？》

突然、翔夜が話題を切り替える。

「さっきのあの振動、アレ何？」

《んー。次元震かなー？》

シエクロムは興味が無さそうに答える。

「なるほど。次元震か・・・。それナニ？」

とうとう愛想が尽きたのかシエクロムの姿が消えた。

「もうちょつと可愛くしろよな。一応女の子なんだし・・・」

そう文句を呟いていると翔夜の瞳はいつもの感じになり、再び雷の音と光が世界を支配した。

同日 12時00分 ミッドチルダ中心地区 「時空管理局本局」

謎の次元震が発生してから約30分が過ぎた頃。なのはとフェイトはある人物の元を尋ねていた。

黒色の髪に硬派なイメージを感じさせるその男性は、クロノ・ハラウンといいなのはとフェイトの上司でありフェイトの義理の兄でもある。

「クロノくん、今起きた揺れの正体は？」

「恐らく次元震だろうが・・・震源が第51管理外世界「サギティー」という所なんだが・・・。その世界の情報が全て何者かに削除されていたんだ。だから、場所が掴めなくて困っているんだ」

クロノはそれでも冷静に資料を眺めている。こういう事態に対して滅法強いので、なのはもフェイトも信頼している。

「とにかく、管理外世界の次元震がここまでくる程だ。恐らくその世界は崩壊、近隣の世界も何らかの影響を受けていると思うていいだろう。何か分かりしだい連絡するから隊舎で待機しててくれ」

「わかりました」

なのはとフェイトは顔を見合わせて隊舎に戻った。

同日同時刻 場所 ？

「はははははははははっ」

声変わりしたばかりの少年の笑い声が聞こえる。その笑い声は人を絶望の淵に追いやるような狂笑だった。

「あゝあ。まさか、世界ごと壊れてしまうとな。それにしても計画は順調だな。この調子で管理局も潰すか・・・」

はたから見たら、この少年はオカシインじゃないかと思う。しかし、

この少年はどこも悪くない。

頭も手も足も内蔵も。どこもオカシクない。

ただ、考える事が全て終わっているのだ。

だから、少年は笑う。狂ったように笑う。だから、少年は恐ろしい程強かった。

そして、少年はまた思う。

「次は何を壊そうかな・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1808p/>

魔法少女リリカルなのはForce - 光を統べる者 -

2011年10月8日04時13分発行